

## 題材名「私のっておきの場所」…〈絵や彫刻など〉

中学校第1学年

A表現 学年	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

### 【題材の目標】

- ・身近な景色のよさや美しさ、特徴などに気付き、それを絵に表す活動に関心を持ち、材料や用具の特性を生かして意欲的に表現しようとしている。  
【美術への関心・意欲・態度】
- ・校舎内や校庭で自分の好きな景色を見付け、その場所と自分との関わりから主題を設定し、思いや意図に合わせて、構図やアングル、色彩などを工夫した自分らしい構想を練っている。  
【発想や構想の能力】
- ・自分の表現意図に応じて、鉛筆によるスケッチや水彩絵の具の基礎的スキルを生かし、創造的に表現している。  
【創造的な技能】
- ・身近な景色のよさや美しさや、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、対象の見方や感じ方を広げながら味わっている。  
【鑑賞の能力】

### 【題材の価値】

#### 【主題について（例）】

- ・自然や生活の中にある身近なものや事象などから、対象の特徴や印象、美しさなどを感じ取ったり考えたりしたことなどを基に、発想や構想をすることを大切にしたい。ここでの主題は、対象を様々な角度から見つめながらそのよさや美しさ、特徴などを見付け、そこからイメージを引き出していくことにより、作り出されていくものである。よって、一人一人の生徒が自分で気付き、感じ取って主題を生み出し、発想や構想をするようにしたい。

#### 【生徒の実態と構想との関連について（例）】

- ・第1学年の場合、描きながら構想を深めたり、描いていく中で構想が変わったりすることもよくある。このような場合、形や色彩などを基に対象のイメージを捉え直していく過程を大切にしていきたい。

#### 【創造的な技能について（例）】

- ・色の醸し出す雰囲気や効果などを感じ取らせることにより、明暗による表現、混色や重色、ぼかしやにじみなどを体験させ、創造的な表現へつなげたい。

#### 【鑑賞の能力について（例）】

- ・作品や対象を静かに落ち着いてじっくりと見つめ、自分の感覚で素直に味わうとともに教師が示した課題や助言などを基に形や色彩、材料などの造形要素に視点を置いて感じ取ったり考えたりするなどの学習が必要である。

## 【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

### スケッチの活用

スケッチは、それ自体が表現の喜びを味わうものであるとともに、作品の発想や構想の場面から、完成、発表や交流までのあらゆる場面で必要な学習である。単に描く力だけでなく、見る力や感じ取る力、考える力などを育成するものであり、その重要性を認識し、表現の能力を育成するために効果的に取り入れる必要がある。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P77より)

## 【板書例】

<b>学習課題等</b>		
準	備	時間のめやす
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題について (生徒の発言を書く。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成の工夫について (主題をどのように表現するか)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技法について (混色や重色等)</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             試作 参考作品           </div>		

## 【準備物の例】

- ・水彩絵の具 筆洗バケツ 筆 雑巾 新聞紙
- ・デスケル 参考作品 デジタルカメラ など


## 発展的な内容

### 【版による表現】

自然や身近なものを基にして、版の効果や美しさを生かした表現が考えられる。版による表現は、紙や布に直接描かずに版をつくり、それを写し取ることや刷り取る中で思いがけない要素が加わること、また、簡単に何枚も作品を制作することができるのが特長である。

版による表現の例としては、一版単色木版画、一版多色木版画、ドライポイント、コラグラフなど様々な技法がある。小学校での造形体験との関連を図り3年間を見通した中で、年間指導計画の中に位置付けることが大切である。

## 【授業の具体例】 10 時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内の「私のとっておきの場所」を探す。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ場所を何枚かデジカメで撮影する。</li> <li>・お互いの写真を見合い、感じたことを話し合う。</li> <li>・私の「とっておき」の場所を切り取る。</li> <li>・生徒一人一人が、自己の感じたことや考えたことを基に主題を生み出す。</li> </ul>	2	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な景色のよさや美しさ，特徴などに気付き，それを絵に表す活動に関心を持ち，材料や用具の特性を生かして意欲的に表現しようとしている。</li> </ul> <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構図やアングルなどの視点から，よさや美しさを感じ取っている。</li> </ul> <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強く表したいことを心の中に描き，感じ取ったことや考えたことを基に内発的に主題を生み出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デスケルを使い様々な場所を覗きながら，気に入った場所を見付けられるように指導する。</li> <li>○ワークシートに「とっておきの場所ベスト3」を記入し，デジカメで撮影させる。</li> <li>○遠近法の一点透視や二点透視などについて押さえておく。</li> <li>○なかなか見付けられない生徒には，「遠近感のある場所」や「授業や部活動での思い出の場所」などを基に考えるようアドバイスする。</li> <li>○構図やアングルなどに着目させることで，ポイントを絞った話合いにしていく。</li> <li>○生徒自らが自分の表したい主題を生み出せるように支援する。</li> <li>○なかなか主題が決まらない生徒には，生徒たちの撮った写真をいくつか紹介し，対話しながら，思いに合った場所を選べるように支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「とっておき」の思いが表れるように構想を練る。</li> <li>・主題をより効果的に表現していくために，形や色の組み合わせ方などを全体と部分の関係で考え，構想を練る。</li> </ul>	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を基に，全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し，心豊かに構想を練っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に構想していく中で，新たなイメージが膨らみ，最初の主題とは違った主題に変わってもよいことをアドバイスする。</li> <li>○試行錯誤の中で，主題と，それを基にした構想が深まっていくことを大切にしよう声を掛ける。</li> </ul>



**題材名「〇〇な野菜や果物（塑像）」 … 〈絵や彫刻など〉**  
**中学校第1学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

**【題材の目標】**

- ・身近な野菜や果物の形の美しさや面白さに興味を持ち、それを粘土で立体として表現することの楽しさを感じ、粘土の基礎的な技法を用いて表現しようとしている。  
【美術への関心・意欲・態度】
- ・野菜や果物をいろいろな角度から捉え、感じ取ったことを基に主題を生み出し、強調、省略、変形などの表現方法を取り入れながら構想を練っている。  
【発想や構想の能力】
- ・粘土制作の基礎的な技法を用いて、主題に合った凹凸や質感などを工夫し、制作の順序を考えながら見通しを持って表現している。  
【創造的な技能】
- ・立体作品の造形的要素に着目しながら、作者の感じ方や表現の工夫を感じ取り、作品に対する思いや考えを話し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げている。  
【鑑賞の能力】

**【題材の価値】**

**【小学校図画工作科との関連（例）】**

- ・材料を見たり触ったりしているときに感じたことや浮かんだイメージを基に構成を工夫し、「A表現」(3)の技能を働かせて具体的な形に表現していく活動などが考えられる。そのような活動の中で表したいことが明確になり、主題が生み出され表現が深まることもある。中学校では、主題を生み出し、それを基に構想することが多いが、特に第1学年においては、小学校図画工作科の学習からの連続性を考えて、生徒の実態や指導のねらいに応じて、この題材のような活動を位置付けることも考えられる。

**【立体としての形の表し方（例）】**

- ・第1学年では、生徒がいろいろな角度から形態を捉え、立体としての量感・質感などに気付き、素材の特性を生かして表現することを大切にしたい。その上で、様々な角度から見た形を意識したり、自分なりのイメージから動きを感じたりする感覚を育てたい。

**【材料（例）】**

- ・立体の表現では、材料選びが大切である。例えば、粘土によるモデリング制作は、生徒が適度に抵抗感を持ちながら思いを表現できる材料である。何度も作り直すことが可能で、特に形のもたらず働きや表現の効果に焦点をあて、それらを確かめながら納得がいくまで取り組めるといった利点がある。

**【創造的な技能（例）】**

- ・立体作品の制作では、材料や用具を効果的に使いこなすために、その特性などから制作

の順序や見通しを考えることが大切である。制作の順序を考えることは、一つ一つの制作の過程において次への手だてを意識しながら制作を進めることであり、自分の表したい主題を美しく効果的に表現する上で重要である。

## 【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

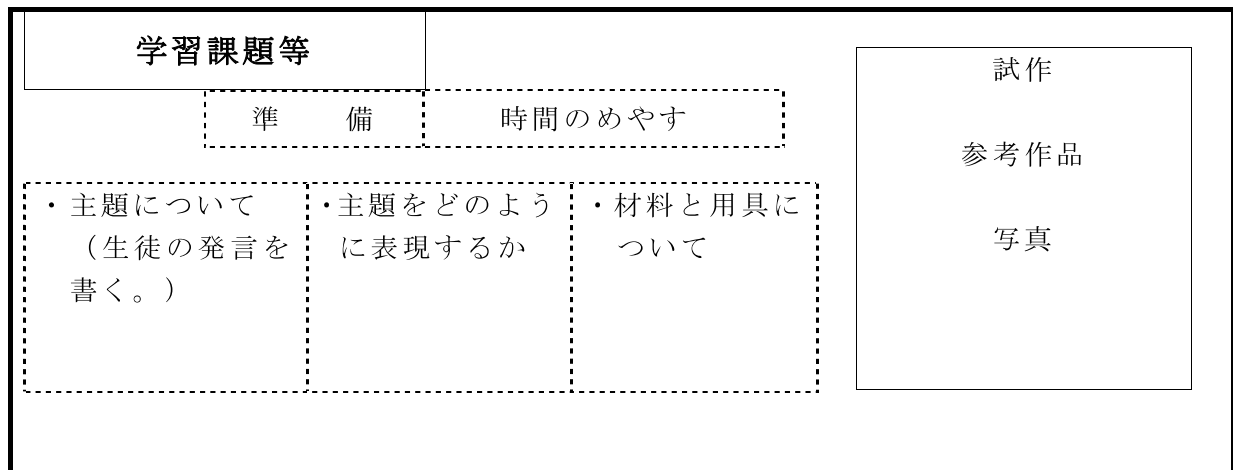
### 描く活動とつくる活動のいずれも経験させる

各内容の指導においては、描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにし、描く活動とつくる活動の学習に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成することが大切である。  
(中学校学習指導要領解説 美術編 P74より)

### 地域の材料や題材などを取り上げる

美術科は自然のものから人工の材料までを自由に取り込み、表現することのできる教科である。材料の取り上げ方については、小学校での材料体験を基にし、それを活用したり、組合せを工夫したりするなどして、中学校では発展的に取り上げるようにする。  
(中学校学習指導要領解説 美術編 P80より)

## 【板書例】



## 【準備物の例】


- ・野菜や果物 スケッチブック
- ・石粉粘土(加工粘土) 粘土ペラ 粘土版 保存用ビニール など

## 発展的な学習の内容例

### 【テラコッタ】

テラコッタとは、陶芸用粘土やテラコッタ用粘土でつくった作品を、焼成させたものである。紙粘土とはひと味違った作品となる。内部に新聞紙などを芯として使い、焼成するとよい。なお、市販粘土にはテラコッタ風粘土というものもあり、焼成しなくても素焼きのような風合いを醸し出すものもある。

## 【授業の具体例】 6時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目を閉じて野菜や果物を触ったり，においを感じたりする。</li> <li>・感じたイメージを言葉にする。</li> <li>・自己の感じたことや考えたことにより，「○○な感じ」を加えた野菜や果物のイメージを基にして，主題を生み出す。</li> </ul> 	1	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜や果物の形や触った感じに興味を持ち，主題を主体的に生み出そうとしている。</li> </ul> <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜や果物から感じ取ったことを基に主題を生み出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒自身に野菜または果物を準備させる。</li> <li>○触った感じやにおいを思い出しながら，イメージを言葉に置き換えさせる。</li> <li>○「ふっくらしたジャガイモ」，「ゴツゴツしたピーマン」，「つんとしたにおいのタマネギ」など，形やにおいのイメージを言葉で表すようにさせる。</li> <li>○主題を決められない生徒には，野菜に触れる中で感じたことや浮かんだイメージを言葉にするようアドバイスする。その際，いくつかの形や質感に関わる形容詞を提示する。</li> <li>○野菜や果物の凹凸が個々の感じ方として捉えられるよう支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○な感じ」が分かるような表現の工夫を考える。</li> <li>・より効果的に表現していくため，強調や省略，変形などの工夫を使って構想する。</li> <li>・目標と制作計画を立てる。</li> <li>・粘土制作の基礎技法を学ぶ。</li> <li>・「○○な感じ」がより表れるように，制作する。</li> </ul>	4.5	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を基に，強調や省略，変形などの表現方法を考え構想を練っている。</li> </ul> <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土制作の基礎的技法を用いて，主題に合った凹凸や質感などを工夫し，制作の順序を考えながら見通しをもって表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構想していく中で，新たなイメージが膨らみ，最初とは違った主題に変わってもよいこととする。</li> <li>○試行錯誤の中で，主題と，それを基にした構想が深まっていくことを大切にする。</li> <li>○完成までの活動を計画し，見通しをもって制作の順序をつかめるようにする。</li> <li>○「付ける」「とる」「ひねり出す」といった技法を学び，粘土の性質についても押さえる。</li> </ul>

		<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作者の表現の工夫を感じ取り、対象の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作の途中に互いの作品を見合う時間を設定し、アドバイスし合ったり、友達の表現を互いに取り入れたりしながら、表現の幅を広げられるようにしたい。その際、リアルさだけに気を取られず、主題を踏まえることを押さえる。</li> <li>思うような凹凸が表現できないなどの生徒に対しては、その原因を聞き、立体的なものの見方や水分調節の仕方、道具の使い方など、具体的に手本を示しながら解決方法を模索させていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>作品に対する思いや考え、題名等を記入する紙に書く。</li> <li>小グループで「〇〇な感じ」を表すための工夫や作品に対する思いを出し合い、鑑賞し合う。</li> </ul> 	<p>0.5</p>	<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立体の造形要素に着目し、作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取っている。</li> <li>作品に対する思いや考えを持って味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの作品のよさや美しさを捉えることができるよう、作品に対する思いや考えを書かせた上で小グループの話合いの場を設ける。</li> <li>作品を構成している造形要素から生じる感情や、特徴から捉えたイメージなどを基にして、他の生徒の意見を聞くように指導する。</li> <li>鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒へは、他の生徒が主題との関わりの中でどのように粘土を生かしたかについて見ていくようにアドバイスする。</li> </ul>



**題材名「本のイメージを形に！（ブックカバーのデザイン）」**

…〈デザインや工芸など〉

**中学校第1学年**

A 表現	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

**【題材の目標】**

- ・日常生活を楽しくする身の回りのデザインに興味を持ち、自分の好きな本のイメージを色や形の構成を利用して構想を練ったり、材料や用具を生かしたりしようとしている。  
【美術への関心・意欲・態度】
- ・グラデーションやシンメトリーなどの色や形の構成を利用し、美的感覚を働かせ、好きな本のイメージを、ブックカバーとして構成したり装飾を考えたりしながら構想を練っている。  
【発想や構想の能力】
- ・デザイン化の方法を理解し、単純化や省略、強調をして、新しい形をつくり出している。また、平塗り等のポスターカラーに関する基礎的技能を身に付けながら表現している。  
【創造的な技能】
- ・「イメージをデザインする」という視点で作品を鑑賞する中で、色や形の組合せに着目して、自分の考えや思いをもって味わっている。  
【鑑賞の能力】

**【題材の価値】**

**【デザインに表現する活動の指導にあたって（例）】**

- ・第1学年では、主に生徒たちの身の回りの生活に目を向け、自分を含めた身近な相手を対象として飾る、伝える、使うなどの目的や機能と美しさを考えて発想や構想をすることをねらいとしている。指導にあたっては、個人としての感じ方や好みにとどまらず、学級や学校の中で他の生徒も共通に感じる感覚を意識させることが大切である。

**【デザインに表現する活動における付けたい力（例）】**

- ・第1学年では、色や形の構成に際して、グラデーションやシンメトリーなどといった色彩や図柄の構成について学び、それらを利用して意図的に美しい構成を考えるという態度や構成力を養いたい。
- ・私たちはデザインされたものに囲まれて生活している。人はそれらのものから機能的な恩恵だけでなく、その形や色彩からも大きな影響を受けている。また、これらのものは、つくった人が見る人や使う人の立場に立って、美しさ、楽しさ、使いやすさなどを考えてデザインしたものである。ここでは、身近な生活や社会をより美しく心豊かなものにしていくために目的や機能と美しさを考え、生活を彩るものを発想や構想する能力を身に付けることが重要である。

**【「構成や装飾」をするための発想や構想について（例）】**

- ・自然や生活環境に見られる構成や装飾の美について捉えさせることは、「構成や装飾」

に関する発想をより豊かなものにしていく上で大切である。また、日本の伝統的なデザインには、動植物の形や色彩、自然現象などを豊かに捉えて発想されたものがあり、機知やユーモアに富んだ遊び心が大切にされ、日常生活を楽しくしようとする美意識がある。また、余白を生かした構図、単純化された独特の表現形式、自然の色を基にした固有の色遣いなど、形や色彩の構成にも特色がある。美的感覚を働かせて、構想を練る際に重要なことは、美しいものへのあこがれや創意工夫の意欲を持たせることである。試行錯誤することやよりよいものを追求し、構想の練り上げや計画性を大切にして、誠実に取り組む態度を育成することが重要である。

## 【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

### 映像メディアの活用 【コンピュータ】

コンピュータの特長は、何度もやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置換え、色彩換えなど、構想の場面での様々な試しができることにある。そのよさに気付かせるようにするとともに、それを生かした楽しく独創的な表現をさせることが大切である。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P 78～79 より)

## 【板書例】

<b>学習課題等</b>		試作 参考作品	
準	備	時間のめやす	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽や水のスケッチ (形や色彩の特徴等…生徒の発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 左のスケッチを単純化や省略、強調した例</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グラデーションを構成した例</li> </ul>	

## 【準備物の例】

- ・ 好きな本 色鉛筆 ポスターカラー 筆洗バケツ
- ・ ケント紙 和紙 配色カード 混色辞典 参考作品 など

## 「静岡県ならではの」を生かした内容

### 【地域の材料を取り上げる】

静岡県を代表する特産品である「お茶」をテーマにしたり、また、県内各地の特産品(例 由比…桜えび、浜松…うなぎ)をテーマにしたりして、それらを入れる箱や筒、包装紙などをデザインする活動が考えられる。さらに、県内各地の伝統的な工芸、民芸等をテーマとすることで、美術が生活に根ざし、伝統や文化の創造の礎となっていることを理解させることも大切である。

## 【授業の具体例】 8 時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックカバーのデザインを鑑賞する。</li>   <li>・大好きな本のイメージを色と形で構成する。</li>   <li>・本の内容を書き出す。</li>   <li>・どんな感じのカバーにしたいかを考える。</li>   <li>・アイデアスケッチをする。</li> </ul>	1	<p>【美術への関心 ・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活を楽しくする身の回りのデザインに興味を持ち、主体的に構成を工夫して構想を練ろうとしている。</li> </ul> <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを単純化したり，省略，強調したりしながら，色や形の構成を利用して自分なりのアイデアを練っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デザイン化された本の表紙を参考作品として鑑賞する場を設ける。</li>   <li>○生徒自身が用意した本の中から一つ選んでブックカバーをつくるように指示する。</li>   <li>○選んだ本の内容を大まかに書き出し，それを手掛かりに色や形，全体像を考えるよう指導する。</li>   <li>○「明るい感じ」「さみしい感じ」「かっこいい感じ」など，単純な言葉で完成のイメージを書くよう指導する。</li>   <li>○発想に戸惑っている生徒には，本に登場するものやイメージを模様や図形で表し，アイデアとして幾つか描き出してみるよう助言する。</li>   <li>○グラデーション，シンメトリー，リズム，リピテーション，アクセントなどの技法について適切に使えるよう指導する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本のイメージが分かるようなイメージスケッチをする。</li>   <li>・単純化や省略，強調などしたものを組み合わせ，画面を構成する。</li> </ul>	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアを取捨選択しながら，構想をまとめ，イメージスケッチを描いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本の大まかな内容やイメージ，登場するものを，単純化や省略，強調などを行うとともに，色や形の組合せを利用して美しく構成するよう投げ掛ける。</li>   <li>○単純化や省略，強調などに戸惑っている生徒へは，本の内容からくるイメージを一緒に考え，少しずつ置き換えていく。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・下絵を描く。</li> </ul>		<p><b>【創造的な技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン化の方法を理解し，単純化や省略，強調をして，自分なりの形をつくり，表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「配色カード」や「混色辞典」を用いて色の組合せの効果を考えられるよう支援する。</li> <li>○活動が止まっている生徒に対しては，なぜ活動が止まっているかを見取り，適宜相談にのる。必要に応じて，他の生徒の工夫を見付けさせたり，学習課題を意識するように声を掛けたりする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本のイメージが伝わるよう彩色する。</li> <li>・彩色の見通しを持つ。</li> <li>・平塗りで美しく塗る。</li> </ul>	3.5	<p><b>【創造的な技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彩色の見通しを持ち，平塗り等のポスターカラーに関する基礎的技術を用いて彩色している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○彩色の見通しを持てるよう指導する。</li> <li>○ポスターカラーの基本的な扱い方について指導する。平塗りについては，特に水分量に気を付け，ムラをつくらないように指導する。</li> <li>○色塗りで戸惑っている生徒には，筆の使い方，色の混ぜ方の手本を示すなどの支援をする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イメージを表す工夫」を，ワークシートに記入する。</li> <li>・小グループで本のイメージを表す工夫や，互いのよさについて話し合う。</li> </ul>	0.5	<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本のイメージをどんな工夫によって表現したか，色や形の組合せを基に表現の工夫を味わっている。</li> <li>・作者の意図と，色や形の組合せに着目して，そのよさを見付け，自分なりの価値意識を持って味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「イメージを表す工夫」など紹介のためのポイントを絞り，小グループで紹介し合うようにする。</li> <li>○グラデーション，シンメトリー，リズム，リピテーション，アクセントなどの技法や色の組合せ，単純化や省略，強調などが作者の意図とつながるかを考えさせる。</li> <li>○図書室に展示コーナーを設けるなどして，作品鑑賞を楽しめるようにする。</li> </ul>

題材名「季節感のある和菓子」…〈デザインや工芸など〉

中学校第1学年

A 表現	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

【題材の目標】

- ・自然物をモチーフとした和菓子の形や色彩の美しさに興味を持ち、主体的に和菓子のデザインに取り組もうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・自然物の美しさを発見し、単純化や省略、強調をして、和菓子の美しい形や色彩を考えると同時に、デザインする和菓子や搔敷（かいしき）について美的感覚を働かせて構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】
- ・デザイン化の方法を理解し、単純化や省略、強調をして、美しい形をつくり出している。また、粘土の基礎的技能を身に付け、それを基に様々な材料や用具を工夫しながら表現している。 【創造的な技能】
- ・「季節感がある」という視点から気付いたことや考えたことなどを互いに言葉で説明し合うことを通して、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情について理解し、よさや美しさを味わっている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【他者に対する心遣い（例）】

- ・第1学年では、他者に対する心遣いを大切にしながら造形的な工夫をし、創意工夫しながら発想や構想することが大切である。それには、表現の動機となる生徒の思いを大切に、多様な視点から発想や構想する方法を経験し、学習するように配慮したい。
- ・この題材では、和菓子を食べる相手の気持ちを考えて形や色彩、材料で表現する。他者にとって楽しんでもらう、心地よさを感じてもらおうなど、生活を心豊かにする視点を大切にする。発想や構想の場面では、こうしたことを大切にして生徒が追求することで、美術の学習を通して他者理解や他者に対する心遣いといった豊かな心を培いたい。

【材料について（例）】

- ・材料が用途や機能に適しているかということ、材料の性質や特徴を様々な角度から理解し、検討する必要がある。また、身近な自然の材料や地域で入手しやすい材料なども活用し、日本の自然や四季の豊かさ、それらの恵みを材料として活用してきた先人の知恵などにも気付かせ、材料への理解や愛着を深めることも発想や構想の質を高めるために必要である。

【創造的な技能について（例）】

- ・第1学年では、形や色彩、材料などの特性を理解し、造形感覚を働かせて用具を適切に扱い、制作の見通しを持ちながら創意工夫して表現するための基礎となる技能を育成することをねらいとしている。

- ・小学校図画工作科での材料や用具などの学習を基に，中学校美術科としてそれらについての理解を深め，技術や技法として身に付け活用できるようにしたい。

### 【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第2の各学年の内容の「A表現」については，(1)及び(2)と，(3)は原則として関連付けて行い，(1)及び(2)それぞれにおいて描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにすること。  
 (中学校学習指導要領解説 美術編 P73より)

### 【板書例】

<b>学習課題等</b>	
準備	時間のめやす
・自然物のスケッチ	・左のスケッチを単純化や省略，強調した例 ・左の単純化や省略，強調したものを形にした例
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           試作 参考作品         </div>	

### 【準備物の例】

- ・ 絵の具 筆洗バケツ 筆 新聞紙 雑巾 はさみ スケッチブック
- ・ 参考作品 自然物の写真 紙粘土 粘土ペラ
- ・ 和紙 千代紙 包装紙 など

## 「静岡県ならではの」を生かした内容

### 【美術館で楽しめる木のおもちゃ】 … ビュフェこども美術館

長泉町にあるビュフェこども美術館には，「木の組み立てオブジェ」「木のボールプール」「木のパネル遊び」「木のドミノ」「触の引き出し」等，子どもたちが楽しく遊ぶことができるよう工夫されたおもちゃがある。それらは，様々な形や色，材質の木からつくられていて，触っていて心地よいものでもある。

これらの玩具を使ったり，鑑賞したりした上で，個々の生徒が「木のおもちゃ」をデザインするといった活動が考えられる。使い手である子どもの立場に立ち，使いやすさや面白さ，興味を引くデザインなどを考える活動を通して，木の温かみに触れながら，多様な発想や構想力を養うことも考えられる。

## 【授業の具体例】 6時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子を鑑賞する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子のモチーフとなる自然物を選ぶ。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>【美術への関心・意欲・態度】</li> <li>・自然物をモチーフとした和菓子の形や色彩の美しさを味わおうとしている。</li> <li>【発想や構想の能力】</li> <li>・「季節感」をどのように和菓子で表現するかを考え、自分の主題の構想を練っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○花や植物等の形につくられた実際の和菓子を数種類用意し、その美しさを鑑賞したり、味を楽しんだりする場を設ける。</li> <li>○自然物や資料を参考にしてモチーフを選択させる。</li> <li>○モチーフがなかなか決定しない生徒には、実際に存在する和菓子の写真、サンプルなどを見ることが出来る場を設定し、支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純化や省略，強調をするとともに，「季節感」を表現するために形や色彩を考えはじめる。</li> <li>・いくつかのパターンでアイデアスケッチを描く。</li> <li>・自然物（植物や動物）の特徴をつかみ，単純化する。</li> <li>・イメージスケッチを完成する。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>【発想や構想の能力】</li> <li>・「季節感」を効果的に表現するために，単純化や省略，強調などを工夫した美しい形を考え，構想を練っている。</li> <li>【発想や構想の能力】</li> <li>・「季節感」が効果的に出るような色彩の構想を練っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「季節感」を表現するために，各季節（各月）でどのような花や植物，果物などが見られるかがわかるように写真で例示する。</li> <li>○和菓子の写真を見せながら，自然物の特徴を基にした単純化の具体的な例を示していく。</li> <li>○単純化や省略，強調をすることに戸惑っている生徒へは，自然物の特徴を一緒に探し，まず言葉に表してみたら，表したいことを見付けるように支援する。</li> <li>○作業する手が止まっている生徒には，その理由を聞いた上で，適宜他の生徒の工夫を見付けさせたり，実物や写真を見せたりして発想の手掛かりを提示し，教師と一緒に考えていけるようにする。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子職人の制作の様子を映像で見る。</li> <li>・制作の仕方を知る。</li> <li>・粘土に絵の具を混ぜる。</li> <li>・材料や用具を工夫して形をつくる。</li> <li>・和菓子に、より「季節感」が出て、おいしく見えるような搔敷(かいいしき)をつくる。</li> </ul> 	2.5	<p><b>【創造的な技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土の基礎技能を身に付け、それを基に様々な材料や用具を工夫して扱いながら、自分なりの技法で表現している。</li> </ul> <p><b>【発想や構想の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子をより美しく見せたり、「季節感」を表したりするために、美的感覚を働かせて、和紙や千代紙等での装飾を考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和菓子職人の制作の様子を映像で見せ、制作の見通しを持てるよう指導する。</li> <li>○粘土に絵の具を混ぜながら、微妙な色彩の変化（グラデーションなど）にも挑戦させていく。</li> <li>○様々な材料や用具（つまようじ、ふきん、はさみなど）を用意して、生徒の柔軟な発想を引き出し、多様な表現につながるように支援する。</li> <li>○和紙等を切ったり重ねたりしながら、和菓子を美しく引き立てる方法を考えさせる。生徒たちに搔敷(かいいしき)の役割を理解させた上で、デザインの工夫を考えさせる。</li> <li>○和紙等は教師側で用意し、自由に選べるようにしておく。また、自分からも材料を探すよう呼び掛ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「季節感」を表す工夫について小グループで話し合い、よさを見付ける。</li> <li>・「季節感」を感じるよさや美しさを見付ける。</li> <li>・制作を振り返る。</li> </ul>	0.5	<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩がもたらす感情を理解し、「季節感」という視点で、工夫したことを説明している。</li> <li>・友達の作品の形や色彩などから「季節感」を表現した工夫を感じ取り、自分なりの根拠を持って味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美しく飾り付けした作品を並べ、互いの作品のよさを見付け合えるように指導する。</li> <li>○話合いの視点を明確にし、形や色彩、「季節感」についての個々の考えを出し合えるようにする。</li> <li>○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒へは、友達の意見を聞くようにしたり、授業者が「季節感」に関わる言葉を提示したりしながら支援する。</li> </ul>